



〈雑録〉新法ニ據ル吞行爲ノ取締ト其實績

山縣，憲一

(Citation)

經濟學商業學國民經濟雜誌, 20(2):253-261

(Issue Date)

1916-02

(Resource Type)

departmental bulletin paper

(Version)

Version of Record

(URL)

<https://hdl.handle.net/20.500.14094/00052480>



新法ニ據ル吞行爲ノ取締ト其實績

商學士 山 縣 憲 一

大正三年九月以來實施セラレタ取引所法及ビ附屬法令ハ舊法ニ對シ多クノ點ニ於テ改正ヲ加ヘラレタノデアルガ、其ノ内デ仲買人ノ吞行爲ニ對スル取締ガ嚴重ニナツタコトガ最モ著シイ點ノ一ツデアル。余ハ茲ニ吞行爲取締ニ關スル新舊法律ノ相違ヲ說キ、新法施行ノ結果、果シテ吞行爲ヲ防遏スルコトヲ得タカ、又之レガ取引所、仲買人等ニ及シタル影響如何ヲ、新法施行後一年間ノ實績ニ照シテ述ベテ見タイト思フノデアル。

抑々吞行爲トハ何デアルカ。之レニ就テ的確ナ概念ガ定マツテ居ナカッタノデ、或ハ客ノ注文ニヨル賣買ヲ取引所市場ニ於テ執行シナイデ置キ乍ラ、恰カモ爲シタルカノ如ク裝フヲ云フノデアルト云フ者モアレバ、又右ノ場合ノミナラズ仲買ガ客ノ注文ニ對シ賣向ヒ、買向フ場合、客ノ反對注文ヲ市場ニテ附合ス場合等ヲモ含ンデ居ルト云フ者モアル。仲買ノ吞行爲ナルモノヲ後說ノ如ク廣ク解スルト取引所ノ小口落シ、利益落シ、即日仕切等モ吞行爲デアルカ否カト云フコトガ問題ニナルノデアル。斯ク吞行爲トハ何デアルカトイフコトニツイテ舊法ニハ何等ノ規定ナク、從テ之ヲ廣

ク解スルモノト、狹ク解スルモノトガアツタノデアルガ、新法デハ吞行爲ノ意義ヲ明カニ規定シテ居ル。即チ取引所法二十五條ノ規定ガソレデアル。同條ニヨルト吞行爲トハ仲買人ガ委託ヲ受ケタル取引所ノ定期取引ニ付、取引所ニ於テ其ノ賣付、買付又ハ受渡ヲ爲サズシテ之ヲ爲シタルト同一又ハ類似ノ計算ヲ以テ委託者ニ對シ其ノ決濟ヲ爲スヲ謂フノデアル。之ニヨルト新法ハ吞行爲ヲ狹ク解シテ居ルノデアツテ、仲買人ガ客ノ注文ヲ市場ニテ執行シタルモ、小口落シ、利益落シ、即日仕切等ニヨツテ相殺セラレ、客ノ注文ガ建玉トナラナカツタ場合ハ之ニ含マヌノデアル。

サテ新法ニ所謂吞行爲ハ右述べタ様ナモノト解シテ置イテ、次ニハ法律ガ之レニ對シテ如何ナル取締ヲシテ居ルカラ見ヤウ。吞行爲ハ客ノ注文ヲ市場ニテ賣買セズシテ而モ爲シタル如ク裝フノデアルカラ、假令仲買人ノ資産、信用確實ニシテ、取引所外ニテ取引所内ニ於ケルト同様ニ其ノ注文ヲ執行シ、客ノ利益ハ害セヌトシテモ、少クトモ定期取引ニ課セラル、政府ノ税金ヲ遁脱シ、取引所手数料ヲ着服スルモノトナルノデアル。

デアルカラ明治十三年以來政府ハ法律ニヨリ之ヲ禁止シテ居ルノデアル。舊取引所法ノ第二十五條ハソレデアツテ「取引所外ニ於テ取引所ノ定期取引ト同一又ハ類似ノ方法ヲ以テ賣買取引ヲ爲スヲ得ズ」ト規定シテ居ルノデアル。此規定ハ吞行爲ヲ特ニ禁止シタ規定デハ無ク取引所ノ獨占ヲ保護スルト同時ニ薄張、合百等ノ定期取引類似ノ行爲ヲモ禁止シタ規定デアルコトハ云フヲ俟タナイ。若シ夫レ同條ニ違反シタル者ハ如何ナル制裁ヲ受ケルカトイフニ、同法第三十二條ニヨツテ五拾圓以上五百圓以下ノ罰金ニ處セラレルノデアル。法律ノ制裁ハ之レダケデアルガ、舊法ノ下ニ於ケル

各地取引所ハ皆定款ニ取引所法違反者ハ農商務大臣ノ認可ヲ得テ除名スベシト規定シテ居タカラ、吞行爲ヲ行ツタモノハ除名セラレルコトニナルノデアル。併シ之レハ表面ダケノコトデアツテ、實際ニ於テハ法律又ハ定款ノ規定ニヨリ仲買人ガ制裁ヲ受ケルコトハ稀レデアツタ。コレハ仲買人ガ取引所法ノ主旨ヲ遵奉シテ、吞行爲ヲシナカツタニヨルノカト云ヘバ決シテサウデナク、吞行爲ハ殆ンド公然ノ祕密トシテ行ハレ、程度ノ差コソアレ吞行爲ヲシナイ仲買ハナイトイフ有様デアツタノデアル。然ルニ政府モ取引所モ之レガ取締ヲ勵行シナイデ、殆ンド之ヲ雲煙過眼視シテ居タノデアル。ソレニハ理由ノアルコトデアツテ、舊法ノ下ニ於テハ吞行爲ハ仲買營業經營ノ爲メ殆ンド必要ノコトニナツテ居リ、之ヲ嚴重ニ取締ルトキハ仲買業ハ立行カズ、從テ取引所モ滅亡シ、政府モ參百萬圓以上ノ財源ヲ失フコトニナルカラ、仕方ナシニ或ル程度マデ之レヲ默許スル有様デアツタノデアル。此邊ノ事情ヲ明カニスルニハ吞行爲ハナゼ行ハレルカトイフコトヲ説カ予バナラス。

仲買ガ客ノ注文ヲ吞ム理由ハ數多クアル。委託證據金ヲ流用シ得ルコトハ其一デアル。取引所手數料ヲ着服シ得ルコトハ其ノ二デアル。ガ併シ定期取引ニ對スル税金ノ高カツタコトガ其ノ主ナル理由デアツタノデアル。舊取引所税法ニテハ商品有價證券ノ定期取引ニ對シテハ萬分ノ六ノ取引所稅ヲ課シタノデアル。此稅率ハ既ニ過重デアルト世間ノ非難ガアツタノデアルガ、日露戰爭中更ニ非常特別稅トシテ萬分ノ六ヲ加ヘ、取引所稅ハ合セテ萬分ノ十二トナツタノデアル。然ラバ此稅ハ誰ガ負擔スルノデアルカトイフト、取引所ニ於テ賣買スル者ガ負擔ス可キ筈デアル。併シ稅率ガ斯ク過重ニナルト、全部之ヲ賣買者ニ負擔セシムルコトニスルト、取引所取引ニ大打撃ヲ加フルコト

ニナルカラ、其ノ一部ハ取引所ト仲買人トニ於テ分擔スルコトニナルノデアル。茲ニ於テ困ルノハ仲買人デアツテ、左ナクモ仲買人ノ手數料ハ僅少デ、之レノミデハ到底立行カスモノデアルノニ、更ラニ其ノ内カラ取引所稅ヲモ出サチバナラスコトニナレバ仲買人ハ正實ニ業務ヲ繼續スルヲ得ズ廢業カ吞行爲カ孰レカ其ノ一ヲ選バザルヲ得ナイコト、ナル。假リニ仲買人が吞行爲ヲヤルコトニシタトスレバ、取引所稅ノ高率ハ少シモ苦痛ニナラナイ。イナ取引所稅ガ高カケレバ高イ程吞屋仲買ハ有利デアル。蓋シ取引所稅ノ高クナル程吞行爲ニ由ツテ仲買ノ利得スベキ金額ガ大トナルカラデアル。デアルカラ非常特別稅ハ吞屋仲買ニ獎勵金ヲ與ヘタト同様な效果ヲ呈シタノデアツテ、此獎勵ニ依ツテ吞行爲ガ日露戰爭後頓ニ著シクナツタノハ固ヨリ其ノ所デアル。

右述ベタ様な事情ニヨツテ吞行爲ガ漸次盛トナリ、定期取引ノ注文ノ大部分ハ市場ニ於テ執行セラレズ、仲買人ノ懷デ決濟セラル、コト、ナルヤ、流石ニ政府モ取引所モ默視スルコトガ出來ズ、最近ノ取引所法ノ改正ニ方リ、此點ニ一大改革ヲ加ヘルコトニナツタノデアル。其ノ主ナル點ハ稅率ノ輕減、稅制ノ變更、仲買人ノ帳簿檢查、仲買人賣買高ノ公示、賣買證明、制裁規定ノ改正等デアル。以下順ヲ追フテ説明スル。

一 稅率ノ輕減及ビ稅制ノ變更

既ニ述ベタ通り舊法ニ於テハ商品、有價證券ノ定期取引ニ對シテ、前後二回ノ非常特別稅ヲ加ヘルト萬分ノ十二ノ取引所稅ガ課セラレテ居テ吞行爲助長ノ主因トナツテ居タノデアル。故ニ吞行爲ヲ豫防スルニハ第一ニ取引所稅ヲ輕減セザル可ラズトハ、取引所法ノ改正ニ方ツテ、學者實際家ノ

齊シク主張スル所デアツタ。ソコデ政府モ大ニ鑑ミル所アリ、歳入減少ノ虞アルニ不拘、斷然取引所税ノ輕減ヲ敢行シタノデアル。即チ新取引所税法ニヨルト、今迄取引所税トシテ取引所ニ課シテ居タ租税ヲ分チテ、取引所ニ課スベキ取引所營業税(株式會社組織取引所ニ限ル)ト仲買人ニ課スベキ取引税トノ二ツトシ、前者ハ取引所ノ賣買手數料收入金額ノ百分ノ十五トシ、後者ハ有價證券商品ニ就テハ賣買約定高ノ萬分ノ五トシタノデアル。而シテ取引所營業税ハ之レヲ賣買直段ノ比例ニ引直スト約萬分ノ一ニナルカラ、之ヲ取引税ト合セテ萬分ノ六ノ税率トナルデアツテ、改正前ニ比較スルト税率ハ約半減セラレタコトニナルノデアル。

二 仲買人ノ帳簿検査

新取引所税法第十四條ニ據ルニ收税官吏ハ取引所、取引所ノ仲買人又ハ會員ニ就キ其ノ賣買手數料又ハ賣買取引ニ關スル帳簿書類ヲ検査シ又ハ監督上必要ノ處分ヲ爲シ得ルコトニナツテ居ル。之ト略ボ同様ノ規定ハ舊取引所税法第六條ニモアツタコトデ、別ニ新法ニヨリテ創定セラレタモノデモナイガ、前述シタ通り舊税法デハ仲買人ニ納税ノ義務ガナカツタ爲メ、收税官吏ガ仲買人ノ店舗ニ就キ帳簿検査ヲナスガ如キコトハ殆ンド絶無デアツタ。然ルニ新税法デハ仲買人モ納税義務者トナツタカラ、收税官吏ノ帳簿検査ニ關スル規定モ甫メテ實際上ノ意味ヲ有スルニ至ツタノデアル。

三 仲買人ノ賣買高公示

取引所法第二十六條第二項及ビ同施行法第二十條ニ據ツテ取引所ハ各仲買人ノ賣買高ヲ公示スルコトニナツテ居ル。即チ前ノ立會日ノ後場及ビ當日ノ前場ニ於ケル各仲買人ノ定期取引高ヲ各物件

ニ付限月毎ニ賣付ト買付トニ分チテ當日ノ前場ノ立會終ル後遲滯ナク市場ノ見易キ場所ニ揭示スルノデアル。仲買人ノ賣買高公示ハ明治三十八年三月八日ノ商工局長ノ通牒ニヨリ一時行ハレタノデアルガ、併シ其ノ揭示スベキ賣買高ハ賣買總高デアツテ、之ヲ物件別トセザリシ爲メ、株式取引所ノ仲買ノ如キハ高價ノ注文株ヲ吞ンデ、之ニ代フルニ價格ノ低キ株券ヲ賣買シ取引所ノ賣買公示ニ依ツテ吞行爲ノ露顯スルノヲ防イダノデアル。新法デハ各物件、限月、賣買別トシタカラ斯カル惡手段ハ之ヲ弄スル餘地ガナイノデアル。

四 賣 買 證 明

新取引所法施行規則第十七條ニ據ツテ取引所ハ客ノ委託セル賣買ガ取引所ノ市場ニ於テ執行セラレタ旨ノ證明書ヲ交付スルコトニナツテ居ル。即チ客ガ仲買人ニ賣買ヲ委託スルト同時に取引所ノ證明書ヲ請求スルトキハ、仲買ハ遲滯ナク取引所ヨリ之ヲ受ケ委託者ニ交付スルノデアル。此規定ハ主旨ニ於テ明治三十九年十二月十四日ニ發布セラレタ省令第三十三號ノ賣買取引證明規定ト同一デアルガ、唯客ガ賣買ノ委託ト同時に其ノ請求ヲスルヲ要シ、後日ニ至ツテ之ヲ請求スルモ仲買ハ之ヲ交付スル責任ナシトセル點ニ於テ異ツテ居ルノデアル。省令第三十三號ニハ請求ノ時日ニ制限ガ無カツタ爲メ、不德義ナル客ハ賣買ニヨリ利益ヲ得タルトキハ證明ヲ求メナイガ、一朝損失ニデモナルト必ズ證明ヲ求メ、若シ仲買人ニ於テ請求ニ應ジ得ザルトキハ、其ノ注文ガ市場ニ於テ成立セザルヲ理由トシ、訴訟ヲ提起シテマデモ損失金ノ支拂ヲ免レントスルニ至ツタノデアル。殊ニ甚シイノハ客ガ注文ニ當リ仲買ノ吞行爲ヲ默許シ證據金、手数料ノ減額ヲ得テ居ル場合ニ於テモ損失

トナレバ賣買ノ證明ヲ求メル。斯クテモ固ヨリ裁判トナレバ仲買人ノ敗訴トナルハ明白デアルカラ仲買人ハ涙ヲノンデ客ノ奸策ヲ忍ブノ外ハナイノデアル。故ニ此規定ハ客ノ惡德心ヲ挑發シ、仲買ノ利益ヲ害スル規定デアルト云フノデ從來仲買側ノ攻撃ガ激烈デアツタカラ、新法デ之レヲ容レテ賣買委託ト同時ニ證明ヲ乞フニ非ザレバ之ヲ交付スル義務ノナイコトニシタノデアル。併シ私見ニヨレバ之ハ甚ダ理由ノナイコトデアツテ、苟クモ吞行爲ナルモノヲ法律ニヨツテ禁止シテ居ル以上ハ何處マデモ之ガ禁止ノ主旨ヲ貫徹セシムベク、客ノ奸策ヲ防止スル爲メトハ云ヒ乍ラ吞仲買ノ利益ヲ保護スルガ如キ規定ヲ設ケタルハ新法ノ大ナル缺點デアルト云ハザルヲ得ナイ。

五 制裁規定ノ改正

既ニ述ベタ如ク舊取引所法デハ吞行爲ニ對スル制裁ハ五拾圓以上五百圓以下ノ罰金デアツテ、其他ニハ何等ノ制裁モ無カツタ。然ルニ新取引所法デハ第二十五條第二項ニヨツテ吞行爲ヲ行ツタ仲買人ハ三箇月以上ノ營業停止又ハ除名ニ處セラレルコトニナツテ居ル。尤モ舊法ノ下ニ於テモ定款ニ依ツテ吞行爲ヲ行ツタ仲買ハ除名セラレルコトニナツテ居ツタノデアルカラ、規定ノ内容ニ於テハ別ニ變化ハナイノデアル。殊ニ除名セラレタ場合ニ於テ舊取引所法デハ終身仲買人トナルヲ得ナカツタノデアルガ新取引所法デハ五箇年間仲買人トナルヲ得ナイコトニナツタノデアルカラ、此點カラ云ヘバ制裁ハ寧ロ輕クナツタトハ云フヲ得テモ、重クナツタトハ云フヲ得ナイノデアル。併シ之レハ法文上ノコトデアツテ實際カラ見レバ舊法ハ殆ンド空文デアツタニ反シ新法ハ政府モ取引所モ之ヲ眞面目ニ勵行シテ居ルノデアルカラ、制裁ハ同一デアツテモ取締ノ效果ニ於テハ大ニ増加シ

タノデアル。又新法ノ下ニ於テハ仲買人ハ吞行爲ニ就キ右ノ制裁ヲ受ケルノミナラズ取引所税法第十七條ニ依ツテ脱税額ノ五倍ニ相當スル罰金ニ處セラレルコトニナツテ居ル。コレハ前述シタ税制ノ變更ニ由ツテ甫メテ行ハレルコトデアツテ、舊取引所税ニ於テハ納税義務者ハ取引所デアルカラ、假令仲買ガ吞行爲ニヨリテ之ヲ遁脱シテモ之ヲ仲買カラ追徴スルヲ得ナカツタノデアル。然ルニ新税制ニ於テハ取引税ノ納税義務者ハ仲買デアルカラ、若シ仲買ガ遁脱スルトキハ之ヲ罰金ニ處スルヲ得ルノデアル。

以上ハ新取引所法及ビ附屬法令中ニ於ケル吞行爲ノ取締ニ關スル規定デアルガ、之ガ實施ノ效果如何ニ就イテハ制定ノ當時大ニ議論ノ存シタ所デアツタ。或者ハ果シテ之ニヨツテ吞行爲ヲ取締リ得ベキヤ否ヤヲ疑ヒ、又或ル者ハ之ニヨツテ政府ノ收入ヲ減ズベシト豫言シタ。併シ實施後一年間ニ於ケル實績ハ是等ノ疑問モ、豫言モ總テ杞憂トナリ、新法ハ確カニ所期ノ目的ヲ達シタヤウデアル。其ノ證左ハ大正三年八月新法施行當時ニ於テ一千二百二十六人ヲ算シタ全國仲買人ガ施行後一年ヲ經過シタ大正四年八月ニ於テハ八百八十六人ニ減少シタコトデアル。之レハ幾分カ此期間ニ於テ一般ノ商況ガ不景氣デアツタニモ起因スルノデアラウガ、併シ原因ノ大部分ハ吞行爲ノ取締ガ嚴重トナリ所謂吞屋仲買ナルモノ、存續ガ不可能トナツタニヨルハ疑フノ餘地ガナイノデアル。然ラバ新法施行ノ結果取引所ノ賣買高ハ増加シタカ減少シタカトイフニ、コレマデ吞マレテ居タ注文ガ市場ニ出ルコトニナツタカラ賣買高ハ大ニ増加シタ。今米、株、蠶絲、綿絲ニ就キ新法施行前一箇年ト施行後ノ一箇年トヲ比較スルト左ノ通りデアル。

大正二年九月—三年八月

大正三年九月—四年八月

增加百分率

米 賣 買 高

七四、四四一、三六五_石

二一六、八六八、四八〇_石

一九一

株 賣 買 高

一四、九九六、八六三_株

三四、〇五七、六七一_株

一二八

蠶絲 賣 買 高

四、一七三、一四五_斤

四、二一四、四五七_斤

一

綿絲 賣 買 高

三六九、六四五_担

一、四二〇、一三〇_担

二八四

大正三年九月カラ四年八月マデハ一般ノ市況決シテ良好デナカッタニ不拘以上ノ如キ好成績ヲ得タルハ吞行爲取締ノ結果ト云ハザルヲ得ナイ。從ツテ政府ノ税金トシテ收入シタ高モ、其ノ稅率ニ於テハ約半減シタニ不拘、金額ニ於テハ二割一分ノ増加ヲ見タ。即チ施行前一年ノ收入額ハ參百〇六萬貳百六拾八圓デアッタガ、施行後一年間ニハ參百七拾壹萬五千四百拾參圓トナッタノデアアル。

以上述べタ所ニヨツテ余ハ新取引所法ハ吞行爲ノ取締ニ就キテハ充分ニ其ノ效果ヲ舉グルヲ得タト信ズルノデアアル。從ツテ本邦取引所ノ一大禍根モ之レニヨツテ殆ンド芟除スルヲ得タト云フ可キデアアル。